

第5次とよおか教育プラン2025年度実践計画年度末検証に関する教育委員協議会 会議録（要旨）

1 日時・場所

2026年4月21日（火）14：25～15：10

豊岡市役所本庁舎3階 庁議室

2 出席者

教育長	嶋 公治
教育委員	飯田 正巳
教育委員	升田 敏行
教育委員	鈴木 千佳
教育委員	島崎 栄子

教育次長	永井 義久
教育次長補佐兼幼児育成課長	向原 芳江
教育総務課長	川崎 智朗
教育総務課図書館長	奥 久美
学校教育課長	川島 秀博
学校教育課参事兼教育研修センター長	服部 隆
教育施設課長	谷口 祥規
教育施設課参事兼課長補佐	加藤 哲夫
幼児育成課参事	三輪 純子
こども支援課こども支援センター副所長	鳥居 保
教育総務課課長補佐	足立美由紀
教育総務課係長	中島 香
教育総務課主任	小野 千絵
教育総務課主事	成田 亜依

3 会議内容

(1) 開会（川崎課長）

2025年度の実践計画年度末検証結果について、それぞれ担当課から説明させていただく。実践計画がより実効性のあるものになるよう、委員の皆さまから様々なご意見をいただきたい。

(2) 協議（小野）

2025年度実践計画年度末検証について

【趣旨】

- ・ 中間検証以降の取組結果を踏まえ、指標の実現状況や各取組の評価について年度末現在で時点修正し、検証を行う。
- ・ 検証委員会で挙げられた意見に対し、対応状況や考え方などを示す。
- ・ 基本的方向の趣旨に対し、2025年度の取組結果（成果や課題）などを総括する。
- ・ 年度末検証の結果は、教育委員会施策の点検・評価結果として、「教育委員会の点検・評価報告書」に内容の一部として掲載する。

【検証総括シートの見方と進め方】 検証総括シートP. 3～4を例に説明
〔2025指標の実現状況〕 →年度末において、2025年度の実現状況を数値で記載。

〔施策と取組の自己検証〕 →中間検証以降の取組結果などを踏まえ、年度末検証としての評価をS～Dで記載。

〔担当課年度末検証〕 →検証委員の意見に対する回答を記載。

〔基本的方向における総括〕 →基本的方向について担当課による成果や課題など、総括を記載。

【基本的方向ごとの協議】

<基本方針1－基本的方向1>

こども支援課 鳥居副所長、学校教育課 川島課長から説明

(嶋教育長)

多様性推進・ジェンダーギャップ対策課の取組内容で、「包括的性教育」という言葉を用いている。取組自体の評価に関して問題ないが、この言葉について共通理解が不十分だと思うので、オリジナル絵本を用いた指導にあたっては、「包括的性教育」の考え方を学ぶ必要がある。

<基本方針1－基本的方向2>

学校教育課 服部参事から説明

(鈴木委員)

演劇ワークショップの授業参観について、子どもたちがありのままの自分を出せる環境というのは、たくさんの大人が見ている環境では、難しいのではないかと感じている。授業参観をしていただくことは大変重要であると思うが、こういった形で参観するのは検証した方がよいと思う。

(服部参事)

演劇ワークショップを授業参観として公開した事例では、対象が小学1、2年生のため、保護者の来校によって子どもが保護者に駆け寄るといった場面もあった。

ファシリテーターが子どもの様子をしっかりと観察しながら、年間3回の実施機会を活かし、「1回目は子どもの様子から公開を見送る」、「3回目なら公開が可能か」といった判断を、ファシリテーターと教職員が密に連携して情報を共有しながら行っていく。

(升田委員)

演劇ワークショップの取組において、ファシリテーターや担当教員がその意義を十分に理解していることは承知しているが、同席する担任や他の教職員まで、どれほど深い理解や納得感があるのか少し懸念している。

子どもと日常的に接しているのは担任教諭である。その担任が取組の意義や価値を深く理解し、前向きに捉えることで、子どもに対する関わり方もより積極的なものになるのではないかと。特定の方だけが理解している状態ではなく、まずは学校組織として「足元を固めていく」ことを大切にしたい。

(服部参事)

委員ご指摘の通り、全教職員の共通理解は非常に重要であると認識している。現在は、演劇ワークショップ終了後、ファシリテーターと担任の間で密な振り返りを行い、その場での子どもたちの変化や新たな一面を共有することで、担任自身も大きな学びを得ている。

今後の課題は、この学びをどう他の学年や学校組織全体へ波及させていくかという点である。現在は、管理職も交えながら研修を行い、現場での組織的な実践へ落とし込めるよう工夫を重ねているところである。特定クラスの担任だけでなく、学校全体で共有できる体制を構築できるよう、今後も丁寧かつ継続的に取り組んでいきたい。

<基本方針1－基本的方向3>

学校教育課 川島課長、図書館 奥館長から説明

<基本方針1－基本的方向4>

学校教育課 川島課長から説明

<基本方針1－基本的方向5>

向原教育次長補佐から説明

(鈴木委員)

読書習慣を園児のときから大事にすることは、とても重要だと思う。今回、「毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合」が増えている要因について、何か効果的な取組があったか。

(三輪参事)

保護者の就労等により家庭で読書時間を確保しにくい現状がある。その中で、園での読み聞かせや絵本の貸し出しを通じて、子どもたちが読書の楽しさを感じ、家庭でも絵本を読むきっかけにつながっている。

<基本方針2－基本的方向1>

学校教育課 川島課長から説明

<基本方針2－基本的方向2>

教育施設課 谷口課長から説明

<基本方針2－基本的方向3>

学校教育課 服部参事から説明

<基本方針2－基本的方向4>

学校教育課 川島課長から説明

(鳴教育長)

実践計画のそれぞれの取組は、豊岡で育む「在りたい自分」と「在りたい未来」を創造する力「～非認知能力（やり抜く力、自制心、協働性）を子どもたちに～」という共通の方向性を指し示している。第4次の計画で非認知能力を前面に出して以降、学校現場への浸透には約3年を要したが、現在では初任者や臨時的任用職員も含め、すべての教職員が理解できる段階に達しているのではないかと感じている。さらに現在は「在りたい自分」、「在りたい未来」について、学校だよりや入学式、始業式の式辞などに反映され、校長や研修部長によって研修テーマとして位置付けられるなど、現場での意識化が進んできている。今後も、こうした上位理念を意識しながら、実践計画を推進し続けることが重要である。

(3) その他（小野）

今後のスケジュール

- ・本日の協議会の意見を担当課で再検討し、必要な場合は検証総括シートを修正する。
- ・修正した場合は、後日文書で報告する。

(4) 閉会（川崎課長）